

議 事 録

1. 会議の名称 池田市史編纂委員会
2. 開催日時 平成25年11月7日(木)
午後2時00分～午後3時45分
3. 開催場所 池田市役所 6階 第2会議室
4. 出席者
※委員長：◎
副委員長：○
- 《委員》
小田 康德 (◎)
芝村 篤樹 (○)
富田 好久
〈事務局職員〉
松森教育部次長
田上生涯学習推進課長
細谷副主幹 関根非常勤嘱託 本井非常勤嘱託
4. 議 題
- (1) 平成25年度事業経過について
(2) 「史料編」⑩(近代史資料)・⑪(現代史資料)について
(3) 平成26年度予算要求について
(4) 今後の市史編纂事業について
5. 議事経過 別紙のとおり
6. 開・非公開の別
※非公開の理由 公開
7. 傍聴者数 0名

開 会

教育部次長挨拶 『新修池田市史』の編纂に続き、『池田市史』史料編⑩（近代史資料）と⑪（現代史資料）の刊行に取り組んでいただいているが、今後はさらに、収集史料の保存・活用も重要な柱になってくる。委員の叡智を拝借し、より充実した事業になるよう、ご協力をお願い申しあげる。

（１）平成２５年度事業経過について

事務局 編纂委員会を１回、専門部会は近代・現代とも２回ずつ開催。また、講関係の史料調査にも着手、年末には、廃棄行政文書の収集も予定している。編纂作業は「史料編」⑩・⑪に取り組んでいる。広報も継続して広報誌やHPでPRしている。さらに、池田市総合計画実施にあたり、当課主幹で関連部局と合同の市史資料保存や歴史的公文書保存等を検討する２つの会議を設けた。

副委員長 廃棄行政文書の収集は、規則化した方が良いのでは。また、各部署の文書担当者らに現状を認識してもらったり、職員研修などで、公文書管理のあり方や、歴史的公文書の有用性などを喚起していくことも重要ではないか。

事務局 歴史的公文書保存等の検討会議でも、問題を提起していきたい。

（２）「史料編」⑩（近代史資料）・⑪（現代史資料）について

委員長 「史料編」⑩は、文字や体裁が厄介で校正が大変なものが多いが、事務局の尽力もあり、刊行に向けてどうにか展望がみえてきた。来年２月に３回目の専門部会を開催し、刊行前の最終点検を行いたい。

副委員長 「史料編」⑪は、史料候補の目途がつき始めた状況。３月までに原稿をまとめ、来年度の出来るだけ早い時期に出稿したい。事務局には翻刻・構成等の編集作業に加え、資料選定から執筆も担当してもらっているうえ、更に、「史料編」⑩の編纂とも重なっており、非常に大変な時期である。

委員長 「史料編」の序文だが、過去の状況を鑑みて、今回は「史料編」⑩のみに所収してもらおうことになるだろう。

（３）平成２６年度予算要求について

事務局 調査計画は従来と同様だ。予算も基本的には従来と同様だが、「史料編」⑩の編纂が終わり、「史料編」⑪を新たに刊行することを反映して、いくつか組み替えた。なお、新たに新聞史料掲載のための著作権料を計上している。

委員長 各種資料の調査・収集・整理は、「史料編」刊行後も継続されるべきだ。市史編纂は本を作るだけでなく、これまで収集した資料の保存・活用や、新たな資料の収集・調査まで含まれるということを確認して対応してもらいたい。

事務局 市史資料保存等の検討会議で、収集資料の保存・活用に関する共通認識づくりを進め、さらに、小中一貫で生じる空き校舎の一部を利用しての、資料の保存場所やメモリアル展示への活用の可能性なども検討している。

(4) 今後の市史編纂事業について

事務局 「史料編」⑩刊行後の市史編纂事業は、学校などへの資料集約を第一目標として検討している。立地や耐震化などの点で、窓口・閲覧機能までは難しいなどの問題はあるが、現状ではほかに場所がない状況だ。また、歴史文化遺産の保存・収集という点から、将来的には文化財保護事業に連携・統合しても良いと考えている。

副委員長 文化財保護事業と一体になれば、市史編纂事業が対象の文書史料も広範に文化財に含まれてくる。このような、新しい文化財保存や地域資料の考えを体系化し、さらに学校教育と結びつきながら活動が出来れば良いと思う。

委員長 歴史認識を市民の共有財産にしていくことは、市史編纂の大きな目標。現在、書物の出版事業が完結したが、市民への成果の浸透という点では、反省・検討すべき余地が多分にある。市民の歴史的アイデンティティの形成にどう役割を果たしていくか、今後の市史編纂の課題だ。その有効策の一つとして、市民が手軽に『新修池田市史』の成果を利用できるWEB版が考えられる。

また、学校教育でも、市内の小・中学生が池田の歴史に興味を持ち、その知識を身につけることは、彼らが社会人になったときに大きな意味を持つてくる。ニーズを調べ、『新修池田市史』をどのように連携し、応えていくかが問題だ。

収集資料の保存・活用と、新たな資料調査・収集は、従来通り続け、これまで市史編纂部局が蓄積してきた資料とノウハウを活かせる体制も大事だ。場所の問題はの中で考えていけば良い。

副委員長 市内の歴史関係の団体や図書館など、広い横の連携が必要だ。さらに、池田の総合的地域研究・教育という機能を持ったものに発展させていくことが基本だ。拡がりのある事業を進めることによって、核が生まれると思う。どのような事業を行うにせよ、直ちに結果に直結するようなものではないから、色々と工夫してチャレンジしていくしかない。今日では、なるべく費用をかけずに、ソフトな事業で情報を発信していくことが求められている。

事務局 そうした事業の一つとして、来年開館予定の中央公民館では、地域や行政のニーズに対応して、今までの市史の積み重ねに関連した歴史講座も開催したいと考えている。

委員長 これまでに市町村史を編纂した自治体は多いが、大半は、刊行後に編纂部局自体が閉鎖し、蓄積した史料やノウハウがそこで途絶えてしまうケースが多かった。池田では、そうした経験を踏まえ、実施体制について議論したうえで新しい基軸や提案を打ち出し、池田市の文化行政全体の中で無理のないように進めていく必要がある。

閉 会